第 15 回日本 YMCA 同盟協議会（2026 年 6 月 20 日～21 日、東山荘）　基調講演

YMCA のキリスト教アイデンティティ（Christian Identity）
― アジアおよび世界におけるキリスト教的アイデンティティの現状 ―

スニタ・スナ（Sunita Suna）
アジア・太平洋 YMCA 同盟 事業担当責任者

こんにちは、ナマステ！

日本の YMCA ファミリーの尊敬すべき指導者、同労者、スタッフ、そしてユースボランティアの皆様。アジア・太平洋 YMCA 連盟を代表してご挨拶申し上げます。

第 15 回日本 YMCA 同盟協議会の場で、皆様の前に立つことを光栄に思います。この重要な集いを通じて、日本 YMCA の活動と奉仕の現場を目の当たりにできるよう、私をお招きいただき、ありがとうございます。

基調講演の準備を進め、第 15 回同盟協議会のテーマについて思いを巡らせていた際、アフリカの伝統的な哲学である「ウブントゥ」を思い出しました。「ウブントゥ」とは「あなたがいるからこそ、私がいる」という意味であり、私たちの人間性は孤立したものではなく、相互につながり合うことで特徴づけられる共有された体験に基づくことを強調しています。

今日、私たちが「分断の世界で　みつかる。つながる。よくなっていく。」という預言的なテーマの下に集まっていることは、まさに「ウブントゥ」を直接的に反映していると言えます。このテーマは、分断された今日の世界において、私たちのキリスト教的アイデンティティと使命を通じて共有される人間性の本質を再発見するよう私たちを招いています。

私の基調講演のタイトルは、「YMCA のキリスト教アイデンティティ（Christian Identity）：アジアおよび世界におけるキリスト教アイデンティティの現状」です。この基調講演は、第 15 回日本 YMCA 同盟協議会のテーマである「分断の世界で みつかる、つながる、よくなっていく。～ポジティブネットの根底に流れるものとは～」とも関連しています。

I. YMCA のキリスト教的アイデンティティ

21 世紀に証しすべき遺産

過去 3 年間、私たちは世界 YMCA の対話に端を発して、YMCA のキリスト教アイデンティティについて議論を重ねてきました。ここにいる多くの方がキリスト教徒ではないかもしれないことを承知の上で、このテーマに関する私の考えを述べさせていただきます。もし私の考察が失礼に聞こえることがあればお詫び申し上げます。そのような意図は全くありません。

2 週間ほど前の 2026 年 6 月 6 日、世界中の多くの YMCA が YMCA 創立 182 周年を祝いまし

た。キリスト教青年会（YMCA）は、2 世紀近く経った今もなお活動している、最も古い組織の一つです！私たち皆が、この遺産の一員であることを誇りに思っていることでしょう。

YMCA は、キリスト教の信仰に基づく団体として、明確な目的を持って設立されました。その目的とは、若者たちをキリスト教の交わりの中で結びつけ、彼らの霊的、知的、そして身体的な成長を育むことです。

大陸や文化を超えて､YMCA はキリスト教のアイデンティティを貫きながら成長してきました。このアイデンティティは単なる歴史的なラベルではなく、地域社会を変革するためのこの運動の使命、価値観、そしてビジョンの礎となっています。

中核となる信仰

その核心において、YMCA のキリスト教アイデンティティは、すべての人は神のかたちに造られており、それゆえに尊厳、敬意、そして機会を受けるに値するという信念を通じて表現されています。この信念が、身体、知性、そして精神の全人的な成長への YMCA の取り組み、ならびに安全で包摂的な地域社会の構築への献身を形作っています。キリスト教の信仰は、YMCA の活動にとってインスピレーションと倫理的指針の両方を提供し、人種、性別、宗教、国籍、社会的地位の境界を越えて奉仕するよう導いています。

少数派という状況における証し ― 謙虚さ、勇気、そして回復力

アジアにおいて、YMCA はしばしばキリスト教が少数派の信仰である環境で活動しています。例えば日本では、キリスト教徒は人口の 1%未満しか占めていません。それにもかかわらず、YMCA は教義を押し付けるのではなく、奉仕、教育、そして提言活動（アドボカシー）を通じてキリストの愛を体現することで、依然として不可欠な存在であり続けています。少数派の文脈において、これは聖書的には「地の塩、世の光」となることを意味します ― 規模は小さくとも、変革をもたらす影響力を持つ存在というです。この少数派という立場は、YMCA に対し、謙虚さ、勇気、そして回復力をもって自らのアイデンティティを確立するよう求めています。

多様性の中の統一 ― 架け橋、対話、協力

YMCA のキリスト教的アイデンティティは、ヨハネによる福音書 17 章 21 節に由来するモットー「すべての者を一つとしてください」とも深く結びついています。この聖句は、多様性の中の一致本質を捉えています ― 私たちは異なるかもしれないが、一つに結ばれている。YMCA は画一性を求めるのではなく、違いが尊重され、多様性が育まれる共同体の構築に努めています。

アジアでは、各 YMCA が宗教間対話、地域開発、気候正義、人権擁護に取り組んでおり、キリスト教アイデンティティが単なる礼拝にとどまらず、具体的な行動 ―すなわち信仰と実践― へと広がっていることを示しています。この一致への取り組みは、YMCA が架け橋となり、多様な信仰、文化、世代間の対話を促進するという、対抗文化（カウンターカルチャー）的かつ預言的な使命となっています。

「パリ基準」から「チャレンジ 21」へ

YMCA のキリスト教アイデンティティは時代とともに進化し、「チャレンジ 21」の宣言（1998 年 7 月）を通じて、現代社会における意義を維持することが目指されています。「チャレンジ 21」は、第三千年紀の幕開けにあたり、1855 年に採択された「パリ基準」を YMCA の使命に関する継続的な基本声明として再確認し、 YMCA が、特に若者に重点を置き、若者の真の参加を重視する、女性と男性のための世界的なキリスト教的でエキュメニカル（超教派的）なボランティア運動であり、すべての被造物に豊かな命をもたらすために、愛と平和と和解によって、人々の正義ある共同体を築くというキリスト教の理想を分かち合うことを目指すものであると宣言しました。

「チャレンジ 21」は、YMCA の多様な信仰的背景と様々な活動状況を踏まえ、この団体をエキュメニカルな組織として位置づけました。多文化・多宗教的な状況に置かれている YMCA は、この基盤の上に立ち、包括性を保ちつつ、いかにしてキリスト教に忠実であり続けるかという問いを掲げ、アイデンティティをめぐる対話の新たな段階へと踏み出したのです。

キリスト教アイデンティティに関する世界的な対話

2023 年以来、世界 YMCA は、キリスト教アイデンティティについて運動全体を巻き込んだ対話を進めています。その焦点は、YMCA がキリスト教のルーツに忠実であり続けつつ、あらゆる信仰を持つ人々や、いかなる信仰にも帰属しない人々をも包摂していくにはどうすればよいかという点にあります。世界中のさまざまな状況に 6,500 万人のメンバーからなる多様なネットワークが広がっているために、この対話は特に慎重を要するものとなっています。このような多元的な環境において、YMCA のキリスト教アイデンティティを定義することが課題となっています。しかし、議論を通じて、YMCA を分断する要素よりも、結びつける要素の方が多いことが明らかになりました。

世界 YMCA Vision2030

YMCA のキリスト教アイデンティティは、気候変動、ジェンダー平等、ユースエンパワーメントといった地球規模の課題に対する取り組みの原動力となっています。2022 年、デンマークのオーフスで開催された世界大会において「世界 YMCA Vision2030」が発表され、Community Wellbeing（コミュニティウェルビーイング）、Meaningful Work（やりがいのある仕事と雇用環境の創造）、Sustainable Planet（持続可能な地球のために）、Just World（公正な世界の実現のために）に焦点を当てた変革の枠組みが示されました。

「世界 YMCA Vision2030」をキリスト教の信仰と関連づけるならば、それは福音、自由、癒やし、正義を宣言する「ナザレの宣言」（ルカによる福音書 4 章 16 節〜21 節）に重ね合わせることができます。この宣言は、キリスト教の証し、そして奉仕、正義、包摂性を通じて信仰を体現する YMCA のような組織にとって、今もなお指針となるビジョンであり続けています。

II. キリスト教が少数派である日本およびアジア・太平洋地域における、YMCA のキリスト教的使命の現状

日本では、キリスト教徒は人口の 1%未満にとどまっています。この少数派という立場は、YMCA のキリスト教アイデンティティを際立たせる一方で、そのあり方を複雑にもしています。日本の YMCA は、教義を宣教するというよりも、奉仕、教育、提言活動（アドボカシー）を通じて、その使命の中でキリスト教の価値観や理念を実践しています。

組織のビジョンとしてこのように述べられています。「互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る」と。

そのプログラムは、ユースエンパワーメント、地域社会の発展、社会正義を重視しており、より広く社会に共鳴する実践的な方法でキリストの愛を体現しています。このアプローチは、謙虚さと証し ―世俗的で多元的な環境において「地の塩、世の光」となること― に根ざしたリーダーシップのスタイルを反映しています。すなわち「ポジティブネット」のビジョンである、人々が互いを尊重し、高め合うコミュニティを築き、キリストが求める一致と尊厳を反映するということです。

アジア・太平洋地域全体において、各 YMCA は同様の現実に直面しています。バングラデシュ、カンボジア、香港、インド、インドネシア、タイ、ベトナム、ミャンマーなどの国や地域ではキリスト教は少数派の信仰ですが、フィリピンや韓国のような場所では多数派となっています。この多様性により、各 YMCA はキリスト教のルーツへの忠実さと、包摂性および対話とのバランスを取ることが求められています。

日本およびアジア・太平洋地域における YMCA のキリスト教的使命は、少数派でありながらも、大きな影響力を発揮していることを示しています。キリストの教えにインスピレーションを得た活動を通じて、YMCA はキリスト教が少数派である社会において預言者的な存在感を維持し、希望を育み、コミュニティ間に架け橋を築いています。

III. 少数派という信仰状況におけるリーダーシップ

YMCA は、リーダーシップを単なる権威や階層構造にとどまらないものと捉えています。そこには、変革を促進することを目的としたキリスト教の価値観が組み込まれています。

包摂性、分断をつなぐ架け橋、連帯の醸成

リーダーシップとは、誰もが、愛、思いやり、尊敬、そして尊厳をもって受け入れられていると感じられる、包摂的で人々に力を与えるコミュニティを育むことです。また、疎外された人々との連携を深め、連帯を示すという私たちの取り組みも同様に重要です。その好事例が、日本の YMCA が毎年実施している「ピンクシャツデー」であり、これは社会の中で周縁化された人々への私たちの支援を力強く示しています。

気候危機のような差し迫った課題に共に取り組む中で、YMCA のリーダーシップは、公共の利益に焦点を当てた共同行動を通じて、いかにしてキリスト教の価値観を体現できるかを示しています。この団結は、私たちのコミュニティを強化するだけでなく、その影響力を拡大し、正義と被造物への責任を求める福音の呼びかけに呼応しています。

ユースのリーダーシップと刷新

世界のユースの 60%がアジアに集中する中、YMCA は、若いリーダーたちに力を与え、その使命とアイデンティティを再構築することに焦点を当てた変革の旅に乗り出そうとしています。

この活気あふれる地域におけるリーダーシップとは、ユースたちの声を広め、自己表現を育み、新たな信仰の言語を育むことを意味します。ユースを最優先に据えることで、YMCA は変化し続ける世界において、その使命を時代に即した、活力あるものであり続けています。

アジア全域で、ユースたちは YMCA を、出会い、つながり、変革するための聖域 ―違いが単に認められるだけでなく、祝福される場所― として捉えています。未来は明るく、それは若者たちの手に委ねられています！

IV. 分断された世界における YMCA のリーダーシップに関する聖書的考察
：みつかる。つながる。よくなっていく。

多様性の中の一致（ヨハネ 17:21）「すべての人を一つにしてください」

イエスがヨハネによる福音書 17 章 21 節で「すべての人を一つにしてください」と祈られたとき、御自身のリーダーシップの真髄を明らかにされました。イエスのビジョンは画一性ではなく、一致に向けられていました。

YMCA にとって、この聖句は単なるモットーではなく、召命そのものです。イエスのリーダーシップは、真の一致とは違いを消し去ることではなく、愛の絆の中で多様性を受け入れることであると私たちに教えています。漁師、徴税人、熱心党員など、さまざまな背景を持っていた弟子たちを、イエスは一つにまとめ、一つの使命へと導かれました。イエスは画一性を求めたのではなく、彼らの違いを神の国のための力へと変容させたのです。

キリスト教が少数派の信仰である状況において、この教えはとりわけ力強いものです。YMCA におけるリーダーシップとは、互いを尊敬しつつ出会い、共通の価値観を通じてつながり、共に変容していくためのコミュニティを築くことで、一致を願うキリストの祈りを体現することを意味します。イエスは、助けを必要とする人々に手を差し伸べ、病人を癒やし、飢えた人々に食べ物を与え、人々を真理と義へと導くことにより、その宣教活動において、変革をもたらすリーダーシップを実践されました。

今日の YMCA のリーダーたちにとって、ヨハネによる福音書 17 章 21 節は、挑戦であると同時に約束でもあります。それは、分裂に抗い、排除や不正義に立ち向かい、変革をもたらすリーダーシップを体現するよう、私たちに求めています。また、たとえ少数派という状況にあっても、私たちがキリストの愛を実践するとき、和解と平和に向けた神のより大きな計画の一部となることを約束しています。

多様性の中での一致は容易なことではありません。そこでは、忍耐、謙遜、そして勇気が求められます。しかし、イエスは私たちにその道を示してくださっています。それは、祈り、奉仕、そして愛に根ざしたリーダーシップです。YMCA がこれを受け入れるとき、キリストのビジョンを生きたものとして証しする存在となります。たとえ数は少なくても、その影響力は輝きを放つのです。

私たちは、国家、文化、コミュニティが分断された世界の中に生きています。そこにはしばしば孤立や対立が見られ、世俗主義、ナショナリズム、不平等によって社会が形成されます。こうした状況下において、今日、クリスチャンとはどのような存在なのでしょうか。

みつかる。(Encounter)

イエスの宣教は、出会いの上に築かれました。イエスは、人々がいる場所 —井戸のそば、道端、家の中、市場— で人々と出会われました。イエスは耳を傾け、癒やし、そして温かく受け入れてくださいました。

• YMCA にとって出会いとは、現実の中に置かれた人々 — アイデンティティに悩む若者、経済的困難に直面する家族、気候変動に直面するコミュニティ— と出会うことを意味します。

• 出会いとは、深く耳を傾け、違いを尊重し、すべての人の中に神の姿を見出すことです。

つながる。(Connect)

イエスは出会いにとどまらず、つながりを築かれました。漁師、徴税人、熱心党員など、多様な背景を持つ弟子たちから成る共同体を形成し、彼らを宣教の使命の下に一つにまとめられました。

• YMCA にとって、つながりとは、世代、文化、信仰といった隔たりを越えて架け橋を築くことを意味します。

• 日本の YMCA のビジョンである「ポジティブネット」は、これを美しく表現しています。それは、尊敬と励ましによって結ばれた共同体の姿であり、そこでは一人ひとりの賜物が全体を強めるのです。

• つながりは、分断に対する解毒剤です。それは連帯と共通の目的を生み出します。

よくなっていく。（Transform）

真の変革は、出会いとつながりによって生まれるものです。イエスは人々の人生を変革しました。尊厳を回復し、傷ついた心を癒やし、新しい生き方へと招きました。

• YMCA にとって、変革とは、個人やコミュニティが自らの最良の資質を見出し、正義と平和を実践できるよう力づけることを意味します。

• 変革は外から押し付けられるものではなく、育まれていくものです。それは、人々が、見守られ、大切にされ、つながっていると感じたときに起こります。

• 分断された社会において、変革とはキリストの愛を証しすることです。その数はわずかであっても、影響力は輝きを放ちます。

第 21 回世界 YMCA 大会のテーマは「Transform（変革）」です。カナダにおける最大規模の集会の一つとなるこの大会は、2026 年 7 月に開催され、「世界 YMCA Vision2030」が世界中でどのように人々の生活やコミュニティに変革をもたらしてきたかを探求します。

コミュニティは、日本の YMCA に対して、以下の期待と信頼を寄せています：

• 世俗的かつ多元的な社会において、キリスト教のアイデンティティを体現する生きた証人となること。

• ユースのリーダーシップを強化し、ユースが単なる参加者にとどまらず、ミッションを形作る主体となるよう保証すること。

• 教会、市民社会組織、および海外の YMCA とのパートナーシップを深め、世界的な連帯を促進すること。

• 「ポジティブネット」のビジョンを推進し、尊敬と励ましによって、一人ひとりが自らの可能性を最大限に発揮できるコミュニティを築くこと。

結び

YMCA ファミリーの皆様、YMCA のキリスト教アイデンティティは、今日においても生きた力となっています。分断された世界において、私たちは心を開いて出会い、思いやりを持ってつながり、勇気を持って変革をもたらすよう招かれています。これこそが、YMCA が体現すべき、信仰に根ざし、希望に支えられ、愛に満ち溢れたリーダーシップのあり方です。

冒頭に述べた「ウブントゥ」の精神 —「あなたがいるからこそ、私がいる」— を心に留めましょう。182 年にわたり、YMCA は変革の遺産を継承してきました。今日、私たちは、男性も女

性も、老いも若きも、子どもたちも、そして被造物も、キリスト教徒も、他の信仰を持つ人々や無宗教の人々も、誰一人取り残されないよう、共にその旅を続けています。今回の同盟協議会が、日本、アジア、そして世界における YMCA のキリスト教アイデンティティを刷新する上での画期的な機会となることを願います。

キリストに導かれ、ビジョンを追い求め、使命の下に一つとなって、共に前進していきましょう。最後に、この状況を的確に表すもう一つのアフリカのことわざを引用して締めくくりたいと思います。

「早く行きたいなら、一人で行きなさい。遠くまで行きたいなら、一緒に行きなさい。」

ありがとうございます。Thank you.